

兵庫県 の 地震 活動

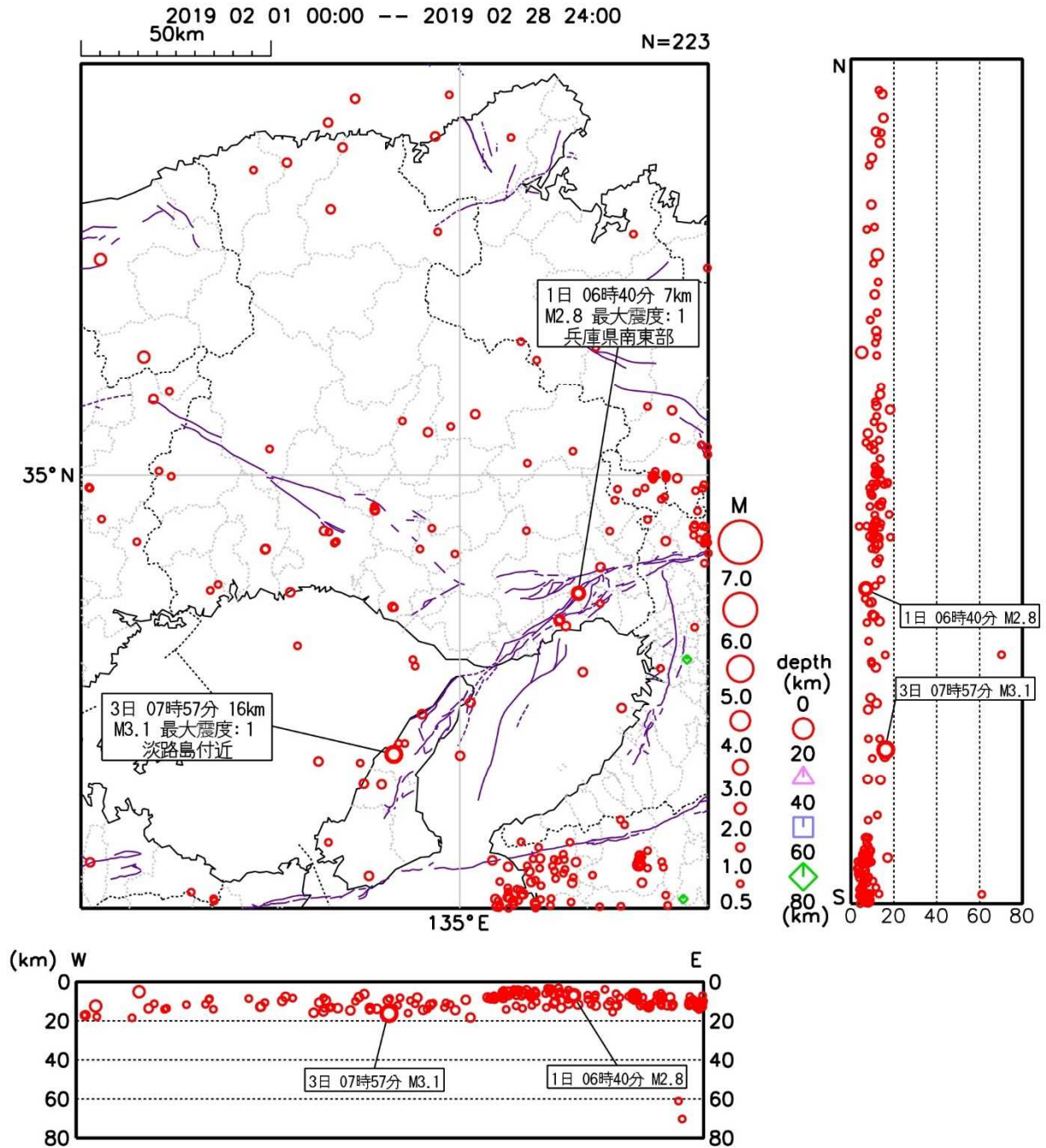
2019 年（平成 31 年）2 月

震央分布図・断面図	1
概況	2
兵庫県で震度 1 以上を観測した地震一覧表	2
兵庫県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図	2
一口メモ	
「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」の公表について	4

- * 「兵庫県の地震活動」は月 1 回発行し、兵庫県内の地震活動状況をお知らせするとともに、社会的に関心の高い地震について適宜解説を行います。また、「一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。
- * この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- * また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

神戸 地方 気象 台

震央分布図・断面図



左上：震央分布図 右上：東から見た断面図 左下：南から見た断面図
注) 分布図の紫線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す。

概 況

—2月の概況—

今期間、兵庫県内では震度1以上の地震を2回観測しました。

1日06時40分 兵庫県南東部の地震（深さ7km、M2.8）により、神戸市中央区、西宮市、芦屋市で震度1を観測しました。

3日07時57分 淡路島付近の地震（深さ16km、M3.1）により、洲本市、南あわじ市、淡路市で震度1を観測しました。

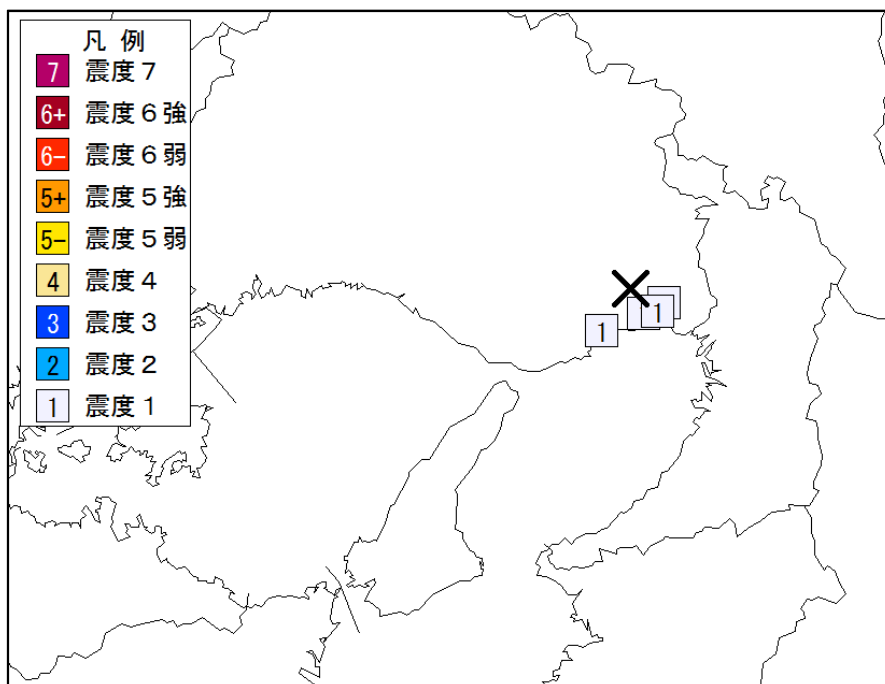
兵庫県で震度1以上を観測した地震一覧表

地震発生日時 震度（兵庫県内）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	全国最大震度
2019/02/01 06:40 兵庫県 震度 1	兵庫県南東部	34° 46.1' N	135° 16.8' E	7km	M2.8	震度 1
兵庫県 震度 1：神戸中央区脇浜，西宮市宮前町，西宮市平木*，芦屋市精道町*						
2019/02/03 07:57 兵庫県 震度 1	淡路島付近	34° 27.3' N	134° 50.6' E	16km	M3.1	震度 1
兵庫県 震度 1：洲本市五色町都志*，南あわじ市広田*，淡路市郡家*						

震源要素は、後日修正される場合があります。確定値は「地震・火山月報（カタログ編）」に掲載されます。なお、*印は気象庁以外の地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

兵庫県で震度1以上を観測した地震の震度分布図

2月1日06時40分に発生した、兵庫県南東部の地震による震度分布図（観測点震度）×印は震央を表す



2月3日07時57分に発生した、淡路島付近の地震による震度分布図（観測点震度）×印は震央を表す



気象庁が噴火警報等で用いる用語集作成の趣旨

気象庁では火山活動を含む防災気象情報を発表しています。防災気象情報は、地方自治体や防災関係機関、住民の皆様提供され、災害に伴う被害の防止・軽減等に活用されています。

平成 26 年 9 月に発生した御嶽山の噴火や平成 30 年 1 月に発生した草津白根山（本白根山）の噴火など、一般の方が、火山に関する用語を聞く機会が増えていますが、火山に関する用語は一般の方にはなじみのない用語が多くあります。気象庁では「気象庁が噴火警報等で用いる用語集（以下、「用語集）」を作成し、平成 31 年 2 月 28 日から気象庁ホームページ（以下 URL）で公表しています。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

「用語集」に掲載されている用語を用いる火山に関する情報は次のとおりです。「噴火警報」「噴火予報」「火山の状況に関する解説情報」「噴火速報」「火山現象に関する海上警報」「降灰予報」「火山ガス予報」「噴火に関する火山観測報」。「用語集」は今後も随時、用語の追加や見直しを行ってまいります。



火砕流の例（雲仙岳 1991 年）

火砕流の実例写真も掲載しています

（気象庁が噴火警報等で用いる用語集の例）

分類	用語	区分	説明
	水蒸気 噴火		火山の地下にある水が加熱され、または減圧により、急激に水蒸気となって膨張することを駆動力とする噴火のこと。
		備考	「水蒸気爆発」は原則として使用しない。
△	爆発		噴火の一形式であり、マグマに溶けていた気体や水が急激に気化・膨張することにより、周囲の岩石を破壊して、溶岩、破片状の固体物質、火山ガス、またはそれらと火山ガスの混合物が、急激に地表に噴出する現象のこと。多くの場合空振を伴う。
		備考	a) 気象庁では原則として「噴火」で統一して使用するが、桜島や霧島山で発生するブルカノ式噴火（爆発音や空振が発生し、周囲の岩石を破壊して大きな噴石を飛散する噴火）など、「爆発」の用語が地元で定着している場合に使用することがある。 b) 爆発地震、空振の大きさ、噴石の飛散などの条件で使用する。 c) 爆発の特徴を表現する場合は、「爆発地震を伴う噴火」や「大きな空振を伴う噴火」等の表現を使用する。
	爆発的 噴火		破片状の固体物質を放出する噴火のこと。
		備考	気象庁では、桜島や霧島山などにおいて、「爆発」と同じ意味で使用してきたが、学術的な定義と異なるため、「爆発」と同じ意味では使用しない。

・分類の△は極力使用を控えますが、場合により火山に関する各種情報で使用する用語です。